

『オ、これはく。見なざる通りの田舎者ぢや、少しお邪魔をさして貰ふても宜えかな。』

『どうぞ御ゆるりとお遊びを願ひますので。』

『時にお前さんは。』

『當家の若い者で。』

『ちとお頭が禿げてるが……。』

『恐れ入ります。斯様な家に奉公致します間は、何歳になりましても若い者と申しますので。』

『そんならお年寄のお若い衆……。』

『御叮嚀で恐れ入ります。』

『失禮乍らお名前は。』

『伊八と申しまして……。』

『何ぢや、いたち……。』

『イエ伊八で。』

『アハ、ハ、ハ、聞き違ひぢや堪忍してくれ、時に伊八とやら、駕屋さんにお賃を上げねば成らぬ、細かい物があつたら鳥渡一兩立替とくれ。』

『へエ承知を致しました。……帳場はん、今のお客さん、一兩おとりかへ。』

『諾しや持つて往き。』

『へエ……へ旦那さん、お待たせいたしました。』

『ハイ御苦勞、ア、駕丁さん、甚い辛勞をさしました。勝手が解らんで尠い様なら遠慮無ふ云ふとくなされや、さはれが駕賃ぢや。』

『ギエツ。こッ。こッ。小判ツ。ブル、ハ、ハ。オイ相棒お禮申せ、一兩下はつたんや。旦那さんお有難うさんで。』

『お有難うさんで。』

『おあーりがとーう。』

『妙な節附けるや無いか。……いや甚う物喜びをなはる。』

『大きに有難う存じますへエ。實は旦那さん内に年取つた母親が一人御座ります。老ひ先も短いので御座りまつさかい、せめて綿の柔い蒲團にでも寝させて遣つたらと思ひましても、其日暮しの駕屋風情で思ひもよらぬ事と諦めとりました。早速これで暖い蒲團を買ふて、老母を喜ばしますで御座ります。へエ有難うさんで。』

『ア、これ、チョツと待ちなされや。何ぢや蒲團を買ふて親御を喜ばす。ア、恐れ入りました。伊八もう二兩立替とくれ。』